

# 荒廃草地の更新

## 一 最も安価な飼料 それは牧草

乳価はどうあろうとも酪農経営で儲ける道は、安いエサで多量の牛乳がであります。購入飼料に比べて自給飼料は確かに安い、その中でも安いのは牧草です。

飼料増産はこの安価のものをまず大幅に、つまり草地造成から始めましょう。

## 二 速成草地の作り

播種当年から二〜三回利用のできる草地造成。これこそ一時も早く安い飼料で酪農を営む近道です。それには利用草種の選定が大切ですが、多くの場合従来の保護作物としての亜麻、えん麦等を用いず、これに代って一年牧草のイタリアンライグラス、クリムソンクロバールあるいはパーシムを用いております。

混播の一例を挙げますと、

基幹	赤クロバール	一〇〇キ
草種	ラデノクロバール	〇・五キ
	オーチャード	一〇〇キ
	チモシー	〇・五キ
	メドウフェスク	〇・五キ

生育が早く + 保護作物の 役目を果たす	イタリアン ライグラス	〇・五〜一〇〇キ
	クリムソン クロバール	一〇〇キ
	(又はパーシム)	

早春に播種しますと二ヵ月後にはイタリアンライグラスは出穂期、クリムソンクロバールは開花始となりますから、なるべく早く刈取りますと、その後約二ヵ月も経てば基幹草種の生育もよく二番草の刈取りができ、普通で二回、よくできますと三回の刈取りができ、翌年からは勿論立派な永年草地となります。イタリアンライグラスではマンモスイタリアンを利用すれば、更に増収可能です。

## 三 荒廃草地の更新

どんなに管理を良好にしても造成後四〜五年も経つと草地は荒廃して、収量は勿論少なく、そのうえ草の質も劣って来ます。

このような古い草地の更新方法は種々ありますが、簡単にてきて、しかも効果のあがる方法は追肥、追播法でしょう。早春まだ牧草の萌芽前に草地全面に肥料をやり、(一例炭カル一〇〇キ、尿素一二〜一五キ、過石二四キ、塩加八キ程度)その後にはデスクハローを縦横にかけ、古い株を切断、肥料を土層に混和し、古い牧草根によってできたマットを破碎し、根に対する通気、水の交流を良好にし、肥料を土層中に混入するようにして、次に牧草の追播をします。追播牧草はなるべく競合に強いものがよく、いね科牧草ではイタリアンライ、ペレニアルライ、メドウフェスク、オーチャード、まめ科牧草ではラデノクロバール、それに赤クロバール等が適当です。播種量はこれらの牧草二〜三種の混播で一〇坪当たり二キ程度が普通です。

土壌水分の豊富な早春では特に乾燥地を除いては覆土の必要がありません。乾燥地では柴ハロー等にて軽い覆土をする程度で結構です。

## 新播草地の混播草種

### 極寒冷地

(道東・道北地方)

○採草地(肥沃地)	チモシー	一〇〇キ
	赤クロバール	一〇〇キ
	アルサイク	〇・五キ
	ラデノクロバール	〇・二キ
	メドウフェスク	一〇〇キ
	ルーサン	〇・五キ
○採草地(瘠地)	メドウフェスク	一〇〇キ
	ケンタッキー	一〇〇キ
	三一フェスク	一〇〇キ
	アルサイククロバール	一〇〇キ
	赤クロバール	一〇〇キ
○放牧牧地(肥沃地)	ラデノクロバール	〇・五キ
	メドウフェスク	一〇〇キ
	チモシー	〇・五キ
	赤クロバール	〇・五キ
○放牧牧地(瘠地)	ニュージランドホワイト	〇・五キ
	レッドフェスク	一〇〇キ
	メドウフェスク	一〇〇キ

### 寒冷地

(道央・道南・東北地方)

○採草地	オーチャード	〇・五キ
	メドウフェスク	〇・五キ
	赤クロバール	一〇〇キ
○放牧牧地	オーチャード	一〇〇キ
	ケンタッキー	一〇〇キ
	ブルググラス	一〇〇キ
○採草地(肥沃地)	オーチャード	一〇〇キ
	ルーサン	〇・五キ
	メドウフェスク	一〇〇キ
	チモシー	〇・五キ
	メドウフェスク	〇・五キ
	マウンテンムブローム	一〇〇キ
	赤クロバール	一〇〇キ
	ルーサン	〇・五キ
	ラデノクロバール	〇・二キ
○採草地(瘠地)	オーチャード	一〇〇キ
	メドウフェスク	一〇〇キ
	トリールオートグラス	一〇〇キ
	赤クロバール	〇・五キ
	ラデノクロバール	一〇〇キ
	ラデノクロバール	〇・三キ
○放牧牧地(肥沃地)	ラデノクロバール	〇・五キ
	ルーサン(リゾーマ)	〇・三キ
	オーチャードグラス	一〇〇キ
	メドウフェスク	一〇〇キ
	赤クロバール	〇・五キ
○放牧牧地(瘠地)	ニュージランド	〇・五キ
	ホワイト	〇・五キ
	オーチャード	一〇〇キ
	ケンタッキー	一〇〇キ

# 牧草地の作り方と

## 一 暖地でも牧草は最も生産費のかからない飼料作物

	10%当収量	栽培作業時間	10%当生産費	養分生産量	総生産費	消化率	粗飼料生産
混播牧草	4,514	76.3	6,057	11.8	191		
デントコーン	4,481	77.9	6,735	11.1	752		
家畜かぶ	3,191	95.7	8,008	41.1	360		

ちよつと考えますと一〇〇坪当たり一夏に一〇〜二〇トも収かのできる青刈作物が一番得な飼料作物のように考えられますが、左表で御覧下さい。暖地でも牧草がやはり有利な自給飼料作物です。(昭三四・農林統計)

そこで自給飼料の主体は牧草、つまり草地造成になります。ただここで考えなければならぬことは、暖地では牧草には夏枯れがあるということ。これを考慮して牧草地を主体とした飼料計画はどうしたらよいかの一例を示しますと、

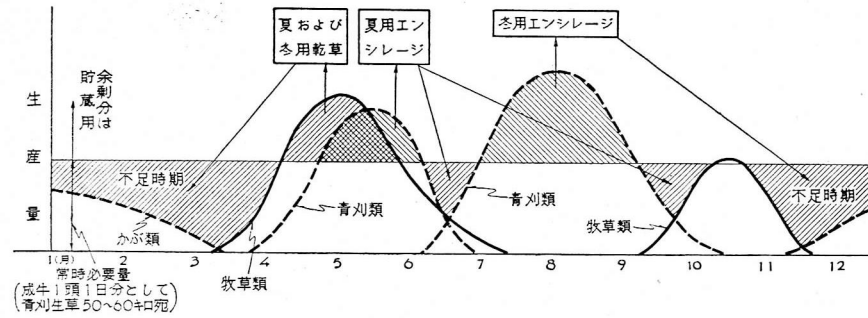
下図の通りとなり作付は乳牛一頭当たりとして、

○普通牧草地一〇坪

○耐暑性牧草三坪

○二坪

各飼料作物の生産時期と利用法の例



普通牧草地で荒廃して雑草がびこったり、まめ科

耐暑性牧草を除いては秋まきが適当です。しかし、肥沃地で極端な乾燥の心配のない土地(北斜面や日陰になる処)では普通牧草も春まきが可能です。この場合、早春まきと、雑草防除(除草剤 MCP-B 二五〇を水七〇で播種一月後に散布がよい)につとめること。

利用草種は一〇頁中段普通牧草の暑さに強い品種を選んで一〇坪当たり三〜四坪を混播する。

## 二 普通牧草地の作り方と追まきによる更新

○青刈作物(二毛作)五坪宛  
冬作(麦類、かぶ、ライグラス)  
夏作(スーダン、ソルゴー、テオシント、デント)五坪  
計 一八坪

この程度のものを用意し、収かしますと、日量生草換算で六〇坪内外の給与が可能となります。

二二坪

やいね科の衰退が甚しく単播状態になった場合は早春にタツプリと施肥(一例、尿素一五〜二〇キ、過石三〇〜四〇キ、塩加一〇キ内外)を行ないハローやレーキで掻き起して、

まめ科の多く残っている時は  
ライグラス一〇キとオーチャード一〇キを追まき  
いね科の多く残っている時は  
ラデノクロバエ、またはニニージランドホワイト〇・五キの追まき

更にまめ科、いね科共に少ない状態では  
ライグラス、オーチャード各一キにラデノ等〇・五キの追まきをして軽い覆土(柴ハローかけ、または竹ぼうきでハク)を行ないますと、見違えるように更新できます。播種後二カ月足らずで利用開始ができます。

## 三 耐暑性草地の造成は初夏に播種

できれば早春に麦類やレープを播種して初夏に緑肥として鋤込み、跡地に播種しますと、真夏には(特に二年目)旺盛な生育が期待できます。

混播草種は採草、放牧牧地で異なりますが一頁参照。

## 草の質がよく 暑さに強い牧草

### ルーサンと

### トールオートグラス

耐暑性の南方型牧草は質の点で北方型牧草に比べて相当劣ります。質もよく暑さにも強いもの、それはエバグリンググラス(常緑草)の異名のあるトールオートグラスと、牧草の王様ルーサンです。

乳牛の嗜好調査の結果では、いずれもいね科、まめ科の上位にランクされ、質の点でも申し分ありません。